CASBEE-建築(新築)2016年版
九勧博多駅前一丁目ビル

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
欄に数値またはコメントを記入　■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート　実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						3.8
Q1 室内環境			0.40		-	3.6
1 音環境		3.6	0.15	-	-	3.6
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音		4.2	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能	T-2以上	5.0	0.61	3.0	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.39	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音	床:ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ、天井:岩綿吸音板	4.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境		3.3	0.35	-	-	3.3
2.1 室温制御		3.6	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能	LOW-Eガラス採用	4.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性	3管式　ゾーン別冷暖選択可能	4.0	0.37	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境		3.1	0.25	-	-	3.1
3.1 昼光利用		3.0	0.30	-	-	
1 昼光率		3.0	0.59	3.0	-	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.41	3.0	-	
3.2 グレア対策		3.0	0.29	-	-	
1 昼光制御		3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度	全般照明方式で照度が500lx以上1000lx未満	4.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御		3.0	0.26	3.0	-	
4 空気質環境		4.5	0.25	-	-	4.5
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆材料を全面的に採用	5.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気		3.6	0.30	-	-	
1 換気量	35㎥/h/人を採用	5.0	0.34	3.0	-	
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.34	3.0	-	
4.3 運用管理		4.5	0.20	-	-	
1 CO_2の監視	ビル管法上、管理者にて定期的な計測・記録を行う(添付資料なし)	4.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	地下1階に完全に区画された喫煙室	5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		–	0.30	-	-	3.7
1 機能性		3.3	0.40	-	-	3.3
1.1 機能性・使いやすさ		2.3	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		1.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画		3.0	0.35	-	-	
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	天井高2.8m、窓あり	4.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33	-	-	
3 内装計画	内装計画、照明計画は事前検証を実施し、十分な配慮を行う	5.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	維持管理に配慮した設計を積極的に行う	5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	維持管理に配慮した設計を積極的に行う	3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.9	0.30	-	-	3.9
2.1 耐震・免震・制震・制振		4.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する	4.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能	制振装置(ハニカムダンパ)を採用	4.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		4.0	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	外壁:アルミサッシ、押出成型セメント板	5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床:ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ、内壁:PB下地EP、天井:岩綿吸音板	5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水(B種VD)、汚水(B種VP),雑排水(B種VP)、通気(A種VP)	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		3.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	取組5つ(①節水器具③BCP排水槽④2槽式⑤中水⑦緊急蛇口)	5.0	0.20	-	-	
3 電気設備	取組3つ(①非発あり④電源設備地下階回避⑤引込二重化)	4.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性		4.1	0.30	-	-	4.1
3.1 空間のゆとり		4.6	0.30	-	-	
1 階高のゆとり	階高4.1m	5.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.16	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり	貸室の積載荷重 4500N/㎡以上	4.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性		3.8	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性	グリッド天井採用により内装の影響なし(添付資料なし)	4.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性	床上排水給水配管方式を採用	4.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性	機器更新のスペース確保	4.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保	バックアップ設備のスペース確保	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)		–	0.30	-	-	4.2
1 生物環境の保全と創出	外構緑化指数20%以上	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮	周辺の街並みに調和した良好な景観形成	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮		3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	公開空地・ピロティの提供による地域貢献、防犯性の配慮	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-		-	4.0
LR1 エネルギー		–	0.40	-	-	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPIm=0.90	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.60	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用		4.0	0.20	-	-	4.0
集合住宅以外の評価		4.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	中央監視装置を設置しエネルギー消費の傾向把握、分析を行う。	4.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	防災センター管理拠点集約、組織的運営、エネ消費量目標値計画有	4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価		-	-	-	-	
4.1 モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル		–	0.30	-	-	4.0
1 水資源保護		3.5	0.20	-	-	3.5
1.1 節水	福岡市認定節水器具を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.3	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無	雑排水(中水)利用有	4.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		4.1	0.60	-	-	4.1
2.1 材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	地下躯体に高炉セメント採用。	5.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	岩綿吸音板、タイルカーペット、タイル	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	グリッド天井、OAフロアの採用	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		4.3	0.20	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用	PRTR法の対象物質を含有しない建材を4つ以上採用	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWP100年値が50未満の製品を採用する	5.0	0.50	-	-	
3 冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境		–	0.30	-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮	LCCO2排出率は参照値に対して67%	4.3	0.33	-	-	4.3
2 地域環境への配慮		3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止	燃焼機器を不使用。空調及び給湯共にオール電化採用。	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.3	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3 交通負荷抑制	福岡市駐車場附置義務条例に基づき適切な駐車台数を確保	5.0	0.33	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1 騒音		3.0	0.33	-	-	
2 振動		3.0	0.33	-	-	
3 悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		3.0	-	-		
3 日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	